

新型コロナへの対応と今後の課題



R3.10.13 第8次医療計画等に関する検討会
大阪市消防局救急課長 前田達也

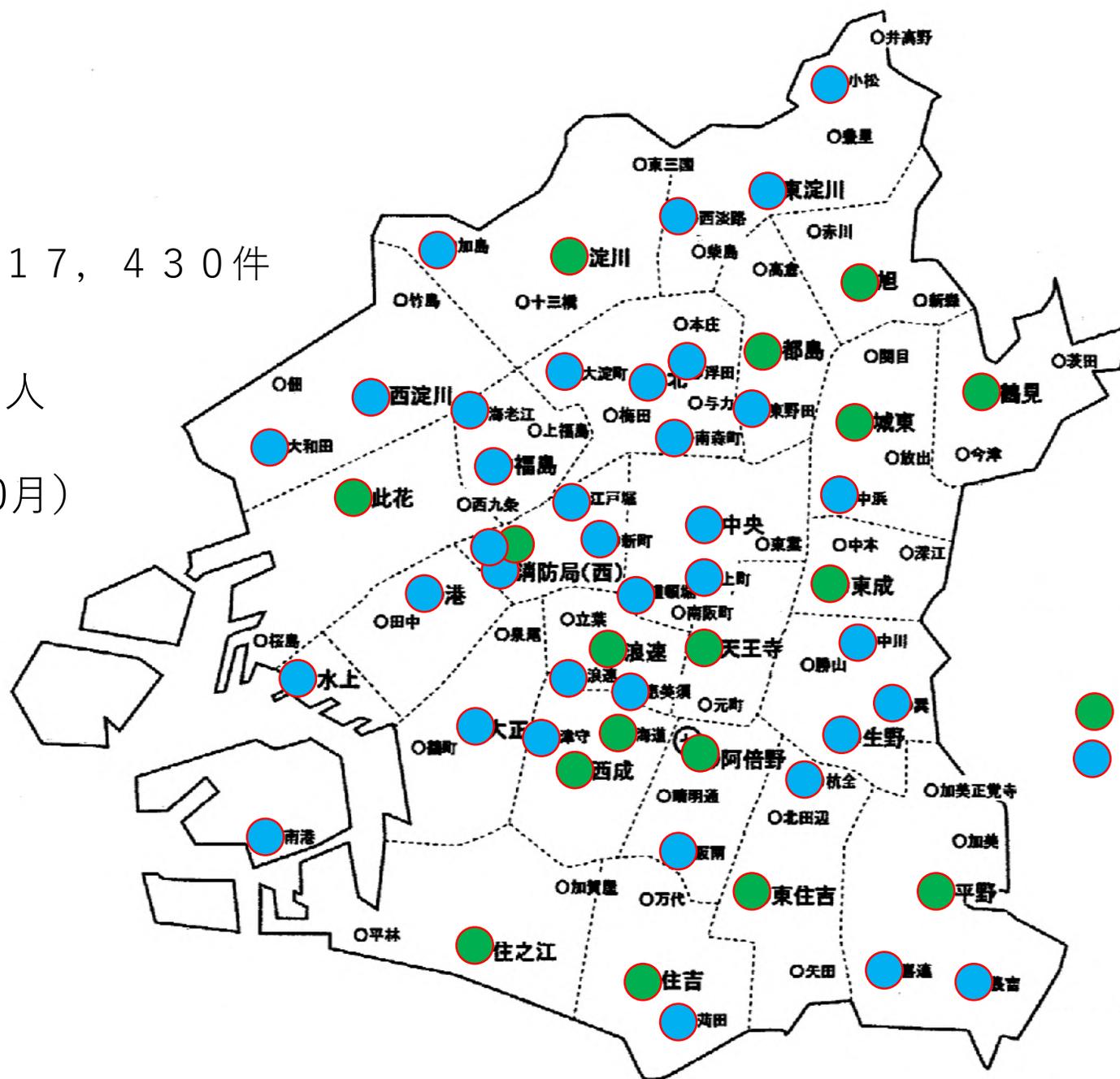
大阪市消防局の救急体制

令和2年中の救急出場件数：217,430件

管轄人口：2,750,995人

管轄区域：22,532km²

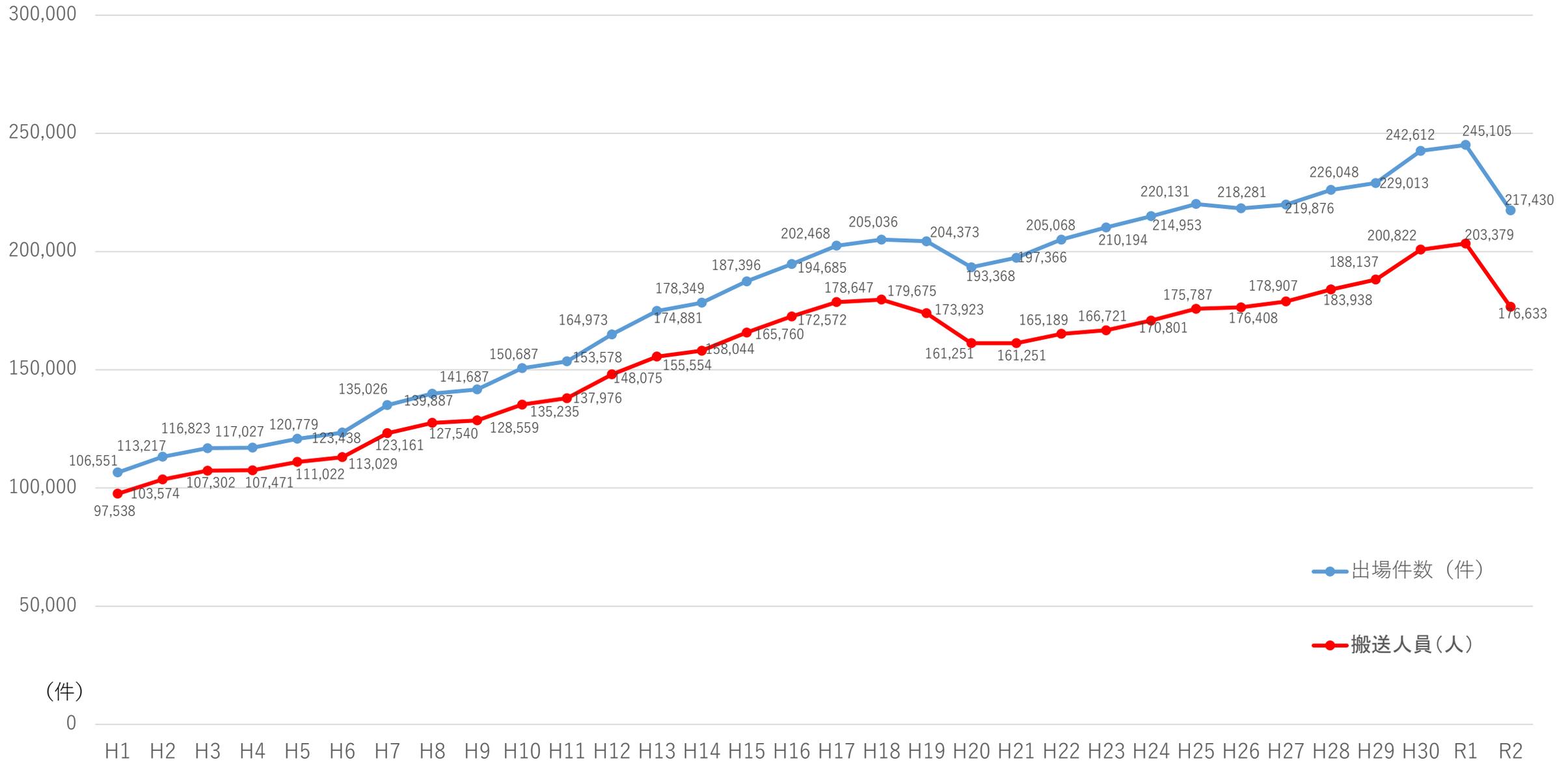
救急隊数：70隊（令和3年10月）



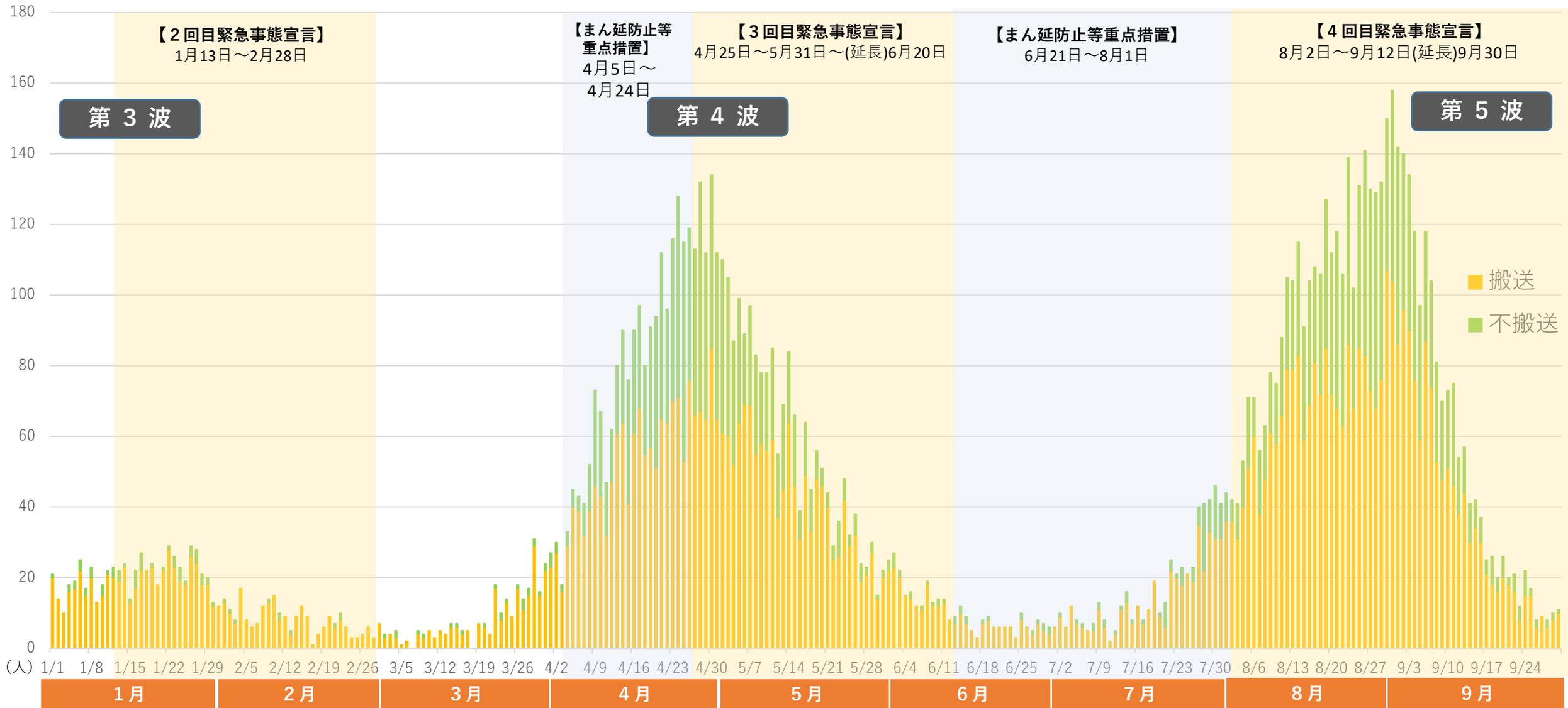
- 1箇所に2台配置
- 1箇所に1台配置

救急隊配置署所

大阪市の救急出場件数・搬送人員



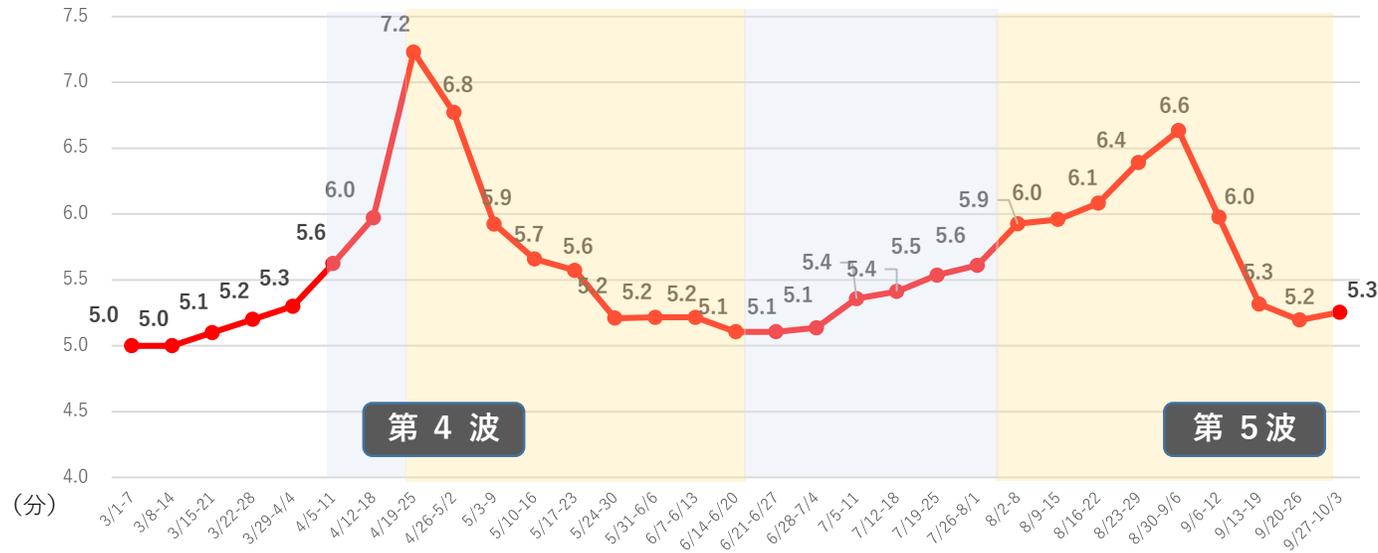
新型コロナ陽性者対応件数（大阪市）



※不搬送とは、「保健所医師による判断」若しくは「傷病者からの搬送辞退の申し出」により搬送しなかったものをいう。

感染拡大第4波から第5波時における活動状況（大阪市）

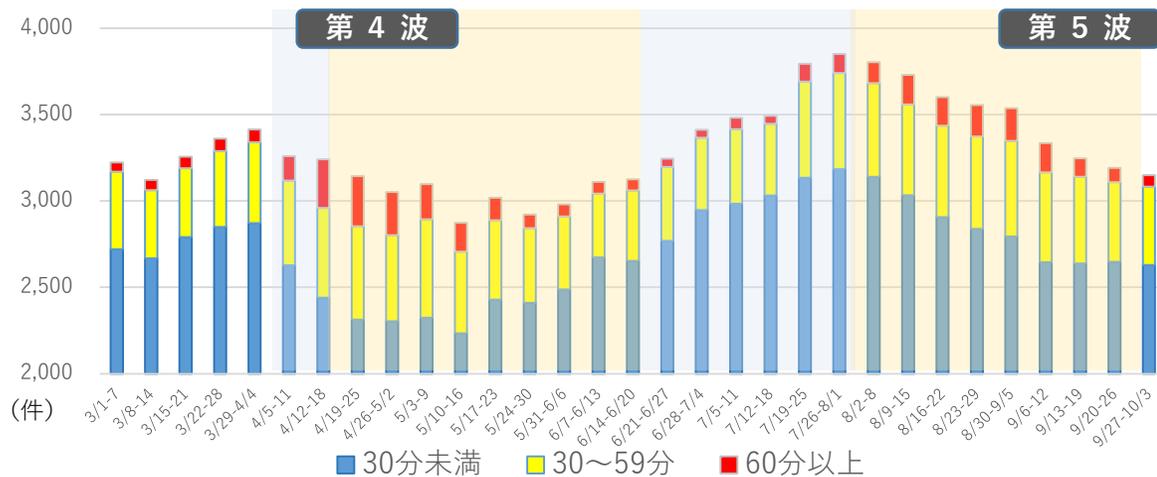
〈現場到着時間の推移〉



緊急事態宣言期間中

まん延防止等重点措置期間中

〈現場滞在時間別の件数の推移〉



〈現場滞在60分以上の件数の推移〉



コロナ禍における大阪市消防局の対応

第4波での対応

- ◆ 救急隊の増隊など救急体制の強化（69隊 → 最大75隊）
 - 本部救急隊（隔日勤務体制）の日勤化による増隊
 - 消防局本部職員の応援による増隊
 - 消防隊による救急隊への乗換運用（フレキシブル救急隊）



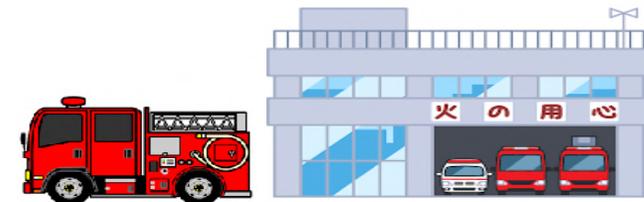
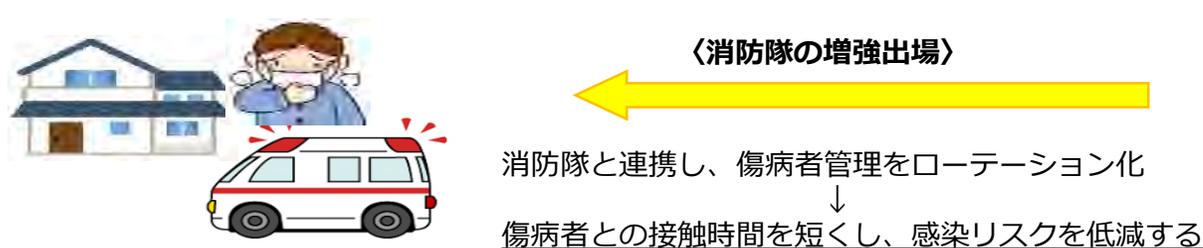
- ◆ 入院患者待機ステーションの運営協力
 - 本部救急隊の24時間常駐体制
 - 各消防署から消防隊の応援
- ◆ 府市健康部局に対応策の申し入れ
 - 酸素投与等の処置を行える宿泊施設の設置要望
 - 宿泊施設で医師等による一元管理



第5波での対応

《第4波で行った対応に加えて、更なる強化策として実施》

- ◆ 長時間救急活動対策にPA連携活動の積極的な活用
 - 傷病者管理をローテーションで行い、傷病者との接触時間の長時間化を防止し、職員の感染リスクの低減を図る。



新型コロナウイルス感染防止対策

○アイソレーターへの追加整備

令和2年度に13基を整備し、主に新型コロナウイルス感染者の転院搬送及び宿泊療養施設からの搬送に使用している。今年度に14基を追加整備



○感染防止用ビニールカーテン取付けアングルの導入

救急車内の天井に専用レールを設置し、ビニールカーテンを取り付けることで、ストレッチャー全体を覆うことが可能



レールを設置することで、全救急隊が統一した感染防止措置を行うことが可能。感染者搬送後の廃棄作業や事前準備作業の時間短縮が図れる。また、換気扇を使用することでカーテン内を若干ながら陰圧にすることが可能

非常用救急車を含む全救急車に装備



○感染防止衣（ディスポーザブルタイプ）の追加整備

新型コロナウイルス感染者への対応として令和2年度補正予算を活用し、感染防止衣（ディスポーザブルタイプ）80,000着を整備



- ・救急隊が安全に活動できる体制を維持するため、今年度23,000着を整備（今年度末納品予定）
- ・来年度以降も同等数を継続整備する

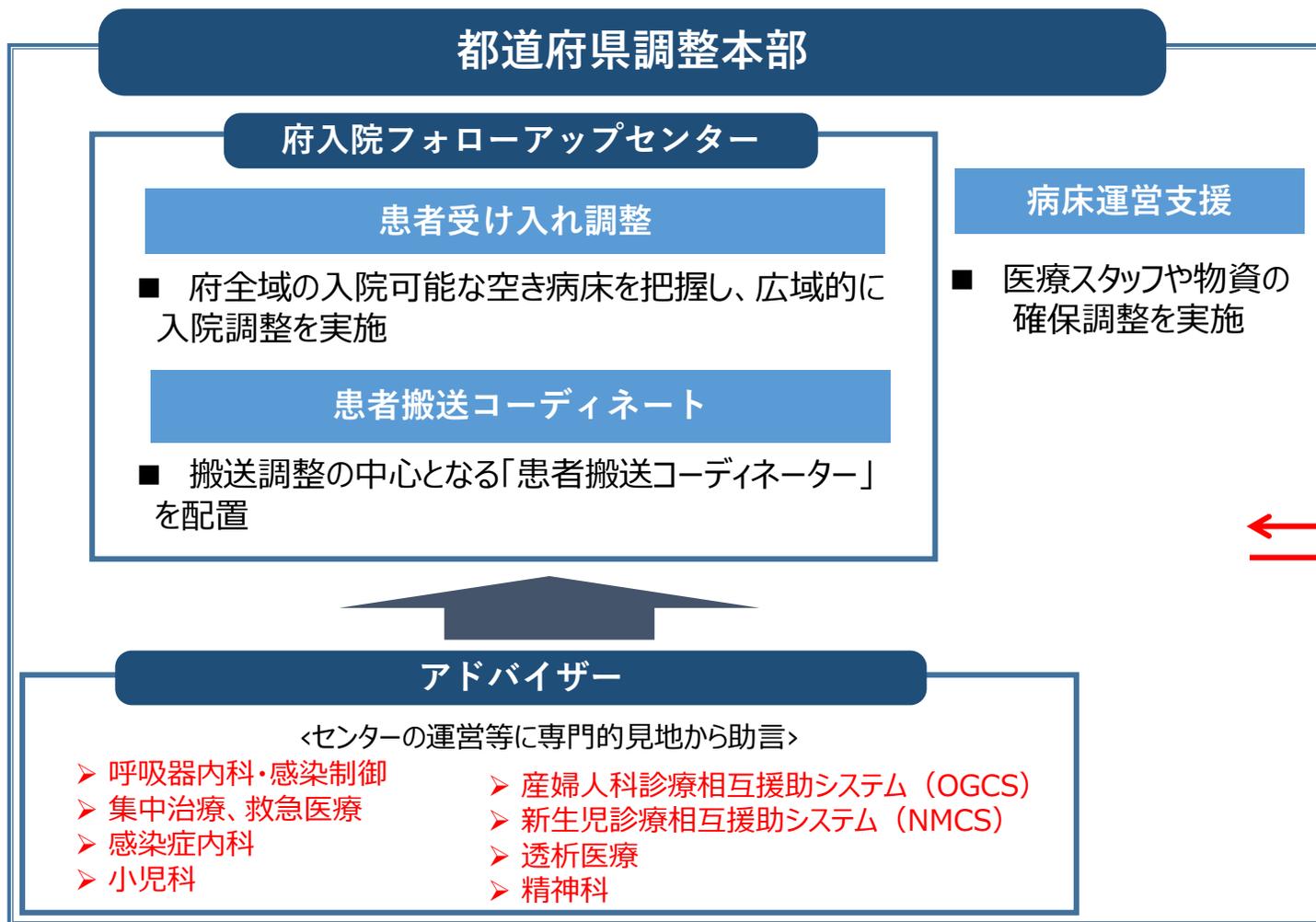


○感染防止に関する研修

- 1.救急救命士集中講義
令和3年6月29日（火）
講師：救命救急センター医師 講義テーマ「“感染”と正しく向き合うために」
- 2.救急ワークステーション研修
令和3年4月14日～令和4年3月18日（予定）
市内救命センター（2施設）
※第4波以降は、救急現場における感染防止対策についてもご指導いただいている
- 3.市大病院生涯教育病院実習
令和3年7月13日～令和4年3月25日（予定）
院内研修及びドクターカー同乗実習を通じて、生涯教育病院実習カリキュラムとともに院内における感染防止対策について受講
- 4.所轄研修担当者（救急研修担当リーダー）に対する研修及び資料配布
令和3年8月30日～令和3年9月2日
「救急車の換気 感染防止について」

大阪府における搬送連絡体制

新型コロナに関する都道府県調整本部（府入院フォローアップセンター）



各地域保健所は救急隊からの連絡を受けて、府入院フォローアップセンターに連絡



府入院フォローアップセンターで搬送先医療機関をコーディネートし、各地域保健所を経由して救急隊に連絡が入る



大阪府との連携

入院患者待機ステーション

◆ 救急搬送が必要な新型コロナ患者の一時待機場所を設置し、入院先病院が決定するまでの間、酸素投与等の措置を行える**体制を大阪府が整備**

⇒ 救急隊が長時間活動から解放 ⇒ 活動可能な救急隊を確保し、**救急サービスを維持**

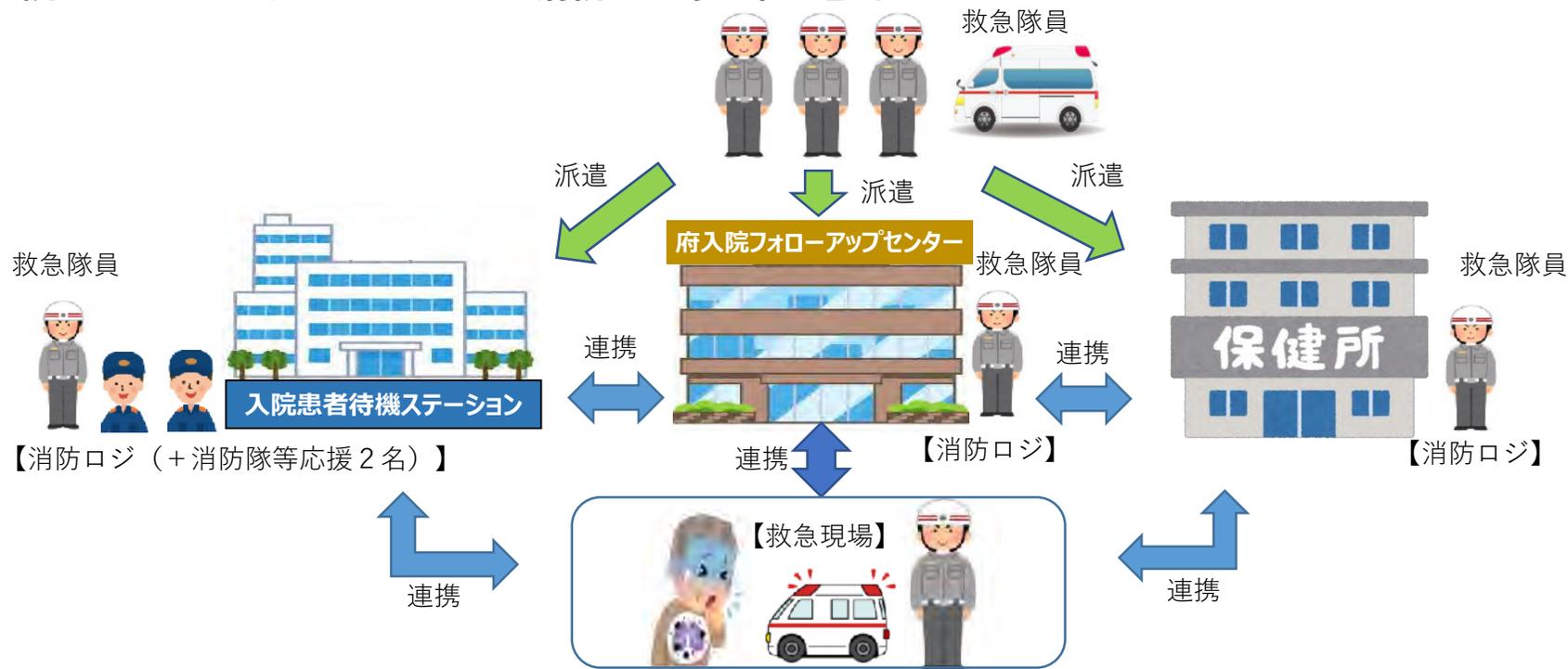
◆ **大阪市内に2カ所開設**

◆ **消防局は、救急救命士を含む救急隊1隊 + ロジ担当を派遣し、運営に協力**



関係機関との連携

市保健所・府入院フォローアップセンターの消防ロジ担当の運用



- ・ 病床逼迫による長時間救急事案に対応すべく入院患者待機ステーションの運用協力を行い、加えて府入院フォローアップセンター及び市保健所へ職員を派遣し、現場救急隊と各機関との情報伝達の円滑化など連携を強化することで、搬送先医療機関選定の迅速化を図る
- ・ 市保健所に派遣の職員は、救急隊からの情報を直接聴取し、その情報をもとに担当医師と調整を図る。また、府入院フォローアップセンター派遣の職員に事前に情報提供（ショートカット）することで、早期から府入院フォローアップセンターと協議しながら搬送先医療機関の調整を始めることが可能
- ・ 府入院フォローアップセンターに派遣の職員は搬送先選定に必要となる情報について、現場の救急隊から直接情報収集（リアルタイムな情報収集）が可能

救急現場に精通している職員（本部救急隊員）を市保健所、府入院フォローアップセンターへ派遣することで、円滑な情報共有が行われ、待機ステーションへの搬入を含め、府入院フォローアップセンターでの入院調整が早期に着手でき、結果的に長時間現場滞在となる救急事案の減少に繋がる

今後の新型コロナ対応への課題

- 感染防止資器材の確保
- 関係機関との連携強化
- 保健所の機能強化
- 搬送先医療機関の選定を都道府県による一元化
(保健所では管轄地域外の医療機関の空床数など詳細な情報は入手が困難であり長時間現場滞在となる要因の1つ)
- 往診医師による診療体制強化
- 民間宿泊施設（ホテル）を活用した宿泊療養施設の設置
(都道府県内の一定の地域に偏重しない分散した設置)
- 臨時医療施設等の設置
(臨時医療機関等の積極的な展開による救急車を含む移送車両の確保)
- 民間搬送事業者の積極的な活用